

氏名	辻 英 之
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 1400 号
学位授与の日付	平成7年3月31日
学位授与の要件	医学研究科 内科系内科学（一）専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Virological and serological characterization of asymptomatic blood donors positive for anti-hepatitis C virus antibody (HCV抗体陽性無症候性献血者のウイルス学、血清学的特徴)
論文審査委員	教授 新居 志郎 教授 原田 実根 教授 太田 善介

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

無症候性HCVキャリアのウイルス学的、血清学的特徴を評価するために、165例のHCV第2世代抗体陽性の献血者に対し、臨床的背景、リコンビナントイムノブロットアッセイ（RIBA）を用いたHCV各種エピトープに対する血清学的反応、PCR法を用いたHCV-RNA量と genotype の検討を行った。肝機能長期正常献血者群（グループN）、肝機能異常献血者群（グループA）間での輸血歴、家族歴、アルコール量6グラム毎日10年以上の飲酒歴、また、ZTT値、K_{ICG}値、ANA、RF陽性頻度に有意な差は認めなかった。

HCVジェノタイプの検討では、組織学的進行に伴い、ジェノタイプ1bの割合が増え、2aの割合が減る傾向があった。グループNでは慢性C型肝炎と比べ、ジェノタイプ2aの割合がより高く1bの割合が低かった。肝機能、ジェノタイプと、RIBAによる4つのHCVエピトープに対する反応をみると、グループNと比べグループAでよりc100-3、5-1-1に対する抗体が、また、ジェノタイプ2a、2bと比べ1bでよりc100-3、5-1-1に対する抗体が反応する傾向がみられた。

血清中ウイルス量の検討ではグループNにおいて有意にグループA、Dよりウイルス量が多い傾向がみられた。グループNでは10⁹ copies/0.5mlの症例が11例存在した。

グループNで11例、グループAで38例施行された肝生検では、全例肝機能または腹部超音波検査で異常が指摘された症例であったためか、1例も正常肝は存在しなかった。

これらの結果よりALT正常を続けるHCVキャリアのなかに異なるウイルス学的特徴を持つ群が存在する可能性を示した。これはHBVにおけるhealthy carrierのように宿主の免疫機構が十分反応できない群であるかも知れない。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、HCV第2世代抗体陽性の献血者について、臨床的背景、HCV各種エピトープに対する血清学的反応、HCV-RNA量と genotype について検討し、無症候性HCVキャリアの中に異なるウイルス学的特徴を持つ群が存在する可能性を示したものである。

C型肝炎の病態の把握に関連し、有意義な知見を得たものとして、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。